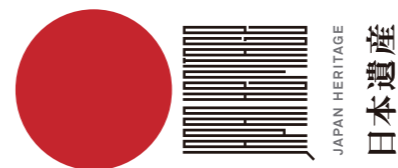


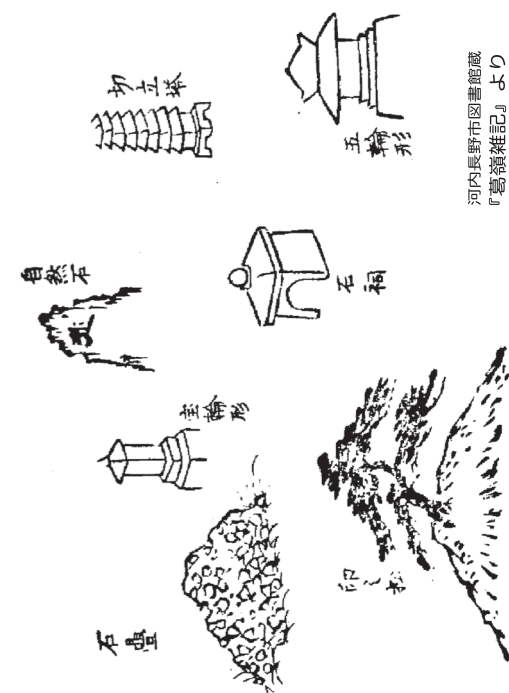
# 葛城修験

古来から山には神が宿るとされ、人々は山を恐れ敬ってきました。修験道は、その山に籠もり修行を行い験力を得るというもので山岳信仰と仏教などが融合してできた日本特有の宗教です。和歌山市加太の友ヶ島を起点とし和泉山脈から葛城山系の山中には役行者が開いたという葛城二十八宿の行場があり、そこには法華経を埋納したとされる経塚があります。山中には、その他にも行場が設けられ、一帯は葛城修験の信仰の場として今日も大切に守られています。

紀の川市内には、倉谷山にある薬草喩品（第5経塚）、志野峠の授記品（第6経塚）、中津川の化城喩品（第7経塚）、和泉葛城山頂付近にある授学無学人記品（第9経塚）があります。中津川行者堂は、本山修験宗（聖護院）では葛城灌頂という特別な修行を行う重要な行場とされています。江戸時代の地誌『紀伊続風土記』では、「役ノ行者葛城山を開きし時斧を執りて前行せし者五人これを前鬼といふ、当村に住む総髪にて官名を聖護院ノ宮より賜ふ前坂主殿・亀岡式部・西野主馬・中井左京・中川但馬これなり」とあり、中津川の行場を開く際に協力した5人の村人を前鬼といい、聖護院から官名を受けたとあります。現在でも、聖護院による春の入峰の際には前鬼の子孫の人々が修行を行う修験者たちの支援を行い、中津川行者堂を管理し守り伝えています。



# 葛城修験



河内長野市図書館蔵 『葛嶺雜記』より

我城の歴史の舞台と特色を埋納 様々な文化財群を繋ぐ「回廊遺産」

## 「葛城修験」一里人ごとくまじけの伝へる修験道はつれづれの地



【発行】

紀の川市教育委員会 生涯学習課

紀の川市西大井338番地

電話0736-77-2511（代表）

※修験道は現在も続く信仰の場です。修験道を訪れる場合はマナーある行動をお願いします。

### ① 薬草喩品(倉谷山) 第5経塚

第5経塚はかつて根来寺にあったようであるが、嘉永2年(1849)に智航上人が記した葛城修験の案内書『葛嶺雜記』では「くらたに山」と紹介されている。山頂付近には、梵字の刻まれた石造物がある。

### ② 授記品(志野峠) 第6経塚

志野峠から少し入ると「経塚」と刻まれた自然石とこもりとした石積がある。『葛嶺雜記』では、「神通畑」の項で志野峠の経塚が紹介されている。

河津中

### ③ 化城喩品(中津川) 第7経塚

経塚の自然石には「大乘妙典一石〇字祈〇 五穀成就」などと刻まれている。「大乘妙典」は法華経をさす。石の側面には「寛延四辛未天4月」(1751)の年号がある。

### ④ 授学無学人記品(嶺の龍王) 第9経塚

江戸時代の地誌『紀伊続風土記』には、「葛城の山峯泉州の境にあり山伏の行所なり、泉州牛瀧並びに大阪辺りに行くものこれを道路とす」とあり、行場であり往還の道でもあったことが記されている。

### ⑤ 中津川行者堂

江戸時代中期書写の『葛城峯中記』には、「中津川秘所参アリ」と記されており、この頃には中津川が葛城修験の行場で「秘所」であったとある。『葛嶺雜記』では、「中津川高祖堂」役行者を祀る堂として紹介されている。

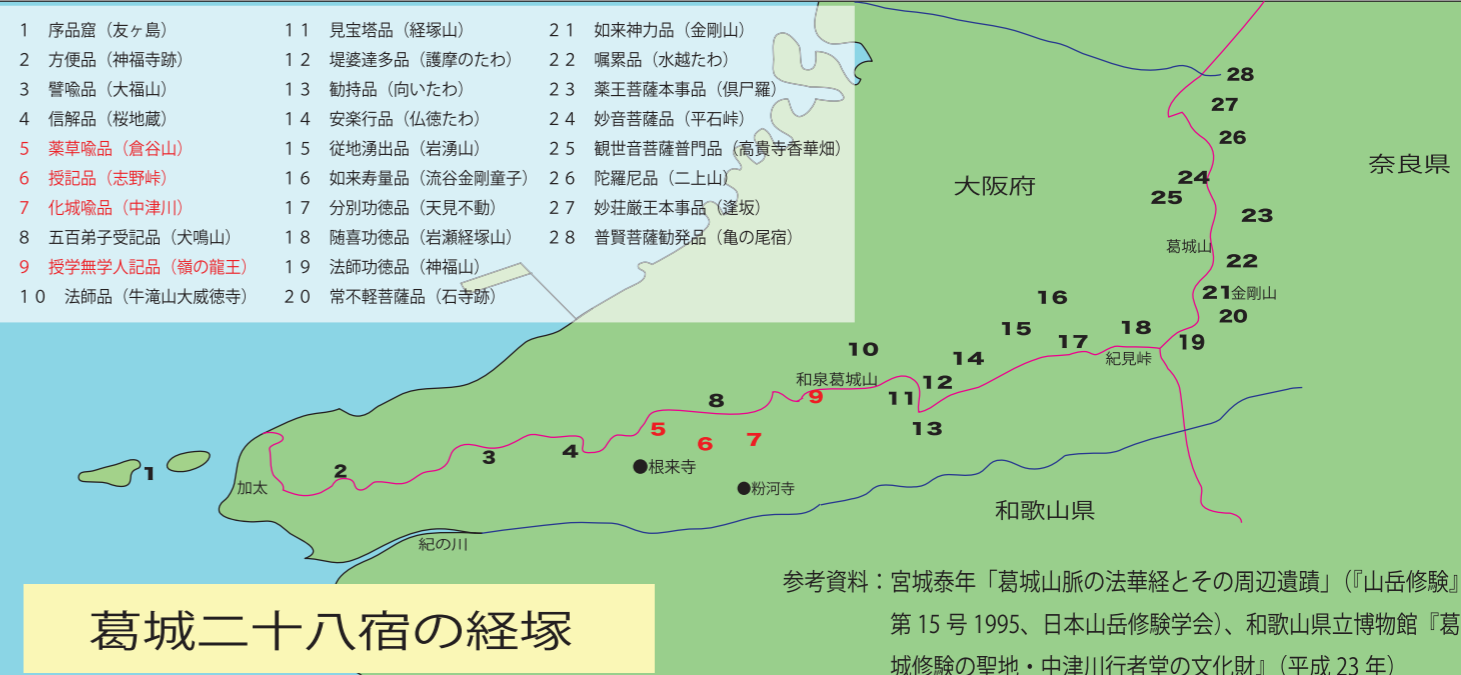
### ⑥ 熊野神社

中津川の産土神社で、『紀伊続風土記』には「社破損の時は聖護院ノ宮より造営し給ふ。毎年聖護院三宝院先達神前にて祈祷大護摩修業あり」とある。また、社殿の棟札からも近世は聖護院により造営がなされていたことがわかる。『紀伊国名所図会』の「中津川」には「大ゴマ所」とあり護摩壇が描かれている。

中津川

### ⑦ 粉河寺

粉河寺は、鎌倉時代初期の修験の霊山縁起を記した『諸山縁起』「宿の次第」では、行場のひとつとして記されている。『紀伊続風土記』には極楽寺(中津川行者堂)は粉河寺の末寺とある。両寺の関係の深さを窺い知ることができる。



## 葛城二十八宿の経塚

参考資料：宮城泰年「葛城山脈の法華経とその周辺遺蹟」(『山岳修験』第15号1995、日本山岳修験学会)、和歌山県立博物館『葛城修験の聖地・中津川行者堂の文化財』(平成23年)

【凡例】

- 経塚
- 行場
- ①～⑦: 日本遺産構成文化財
- 道標
- 道 (破線は通行困難な道)
- 町石
- (5) (9) (10) (11): 推定位置
- 石仏



④第9経塚



道標



③第7経塚



万蔵地藏



⑥熊野神社



⑤中津川行者堂



⑦粉河寺



①第5経塚



経塚



②第6経塚



検木宿



道標

中津川行者堂までの道しるべ



町石 (六町)



(1)道標

紀の川市内の経塚等の位置